要旨

カルティカアユニンシ、トリ。２０１３．宮崎駿監督のアニメ映画『もののけ姫』に反映されている　エボシに人間中心主義とアシタカに環境中心主義の視点。ブラウィジャヤ大学人文学部日本文学科。

指導教官　：（I）Esther Risma Purba；（II）Emma Rahmawati Fatimah

キーワード：自然、環境文芸批評、環境中心主義

すべての生きとし生けるものは、日々の生活を周囲の自然環境に依存する。ただし、人間の生活は、他の生き物の環境劣化と破壊につながっている。人間は、環境との調和のとれた関係の重要性を無視してきた。この研究は、人間の行動の性質が、人間中心主義の視点と環境中心主義の視点によって影響されているかを調べる。本研究で取り組むべき問題は、アニメ映画『もののけ姫』における エボシの人間中心主義の視点とアシタカの環境中心主義の視点についてである。

この研究は、環境文芸批評を使用して、環境倫理の理論、人間中心主義と環境中心主義に基づいている。データは、人間中心主義と環境中心主義の影響を受け、自然の人類のビューの形式で収集されたた。

この研究の結果としてわかったことは、エボシの視点は人間中心主義から派生し、彼が生きている森に害を引き起こす原因となることなく、森林を利用したことだ。アシタカの視点は、環境中心主義は尊重し、それが配置されている自然を守るとともに周囲の環境との彼の関係を保っている。

次の研究は、環境文芸批評のみでアニメを議論しないことを勧める。また、社会的な批判だけでなく、工業化と経済的利益による環境被害のアプローチを検討したい。